

議 長 日程第6「一般質問」に入ります。

一般質問は通告順に行います。受付番号第1号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。

5 番 小 澤 人口減少対策を提案する
要旨 質問書のとおり

町 長 小澤議員におかれましては、町政に対する3つの御提案をありがとうございます。何か最後の質問になるというような、何か寂しい話でございますけども、一生懸命私も回答させていただきたいと思っております。

御質問の中で、2040年の推計人口をもとに、深刻な税収不足が懸念され、財政運営が機能不全になるおそれがあるということでございますが、2040年と言えば今から25年後でございますから、正確に予測することができないことでございます。しかし、町税において、町税のうちの固定資産税については人口減少が影響しにくいというふうに考えておるところでもございます。町民税については、勤労者の減少は大きな要素であります。そのときどきの景気の動向に左右される部分もあると考えております。また現在、地方交付税制度がある以上というか、間は、私としては行政運営が機能不全という方向には、とまでなるといふふうには考えておりません。しかしながら、私を含め職員は、想定外のことが起きても最小限でとにかくおさえるという危機管理意識を持って町政運営に当たっていかねばならないということは、常に頭の中に置いているというふうに考えております。施策によっては、その効果があらわれるものに対しては5年、10年とかかるものもございます。そういった観点から、議員おっしゃるとおりに、早くから方策を立て実施していくことが大切であるということも、私も認識をしております。

それでは小澤議員の御提案につきまして、お答えをさせていただきますが、2点目、3点目につきましては教育長よりお答えをさせていただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

1つ目の、子育て世代誘致促進といたしまして、遊休地を活用とした子育て世代専用住宅の整備についてでございます。町でも少子高齢化の進行による自然減や、転入・転出などによる社会減により、特に若い世代の人口が減少傾向

にあるのは議員の御指摘のとおりでございます。この人口減少の要因を十分調査研究するために、各年齢階層の人口推移や出生率、高齢化率、地域別人口推移、人口減少がもたらしているさまざまな社会要因などを考察し、その数値から見える傾向と対策を踏まえて地方版総合戦略を策定し、新たな制度設計を進めているところでございます。そこで、定住という目的で取り組んでおります住宅施策の現状につきまして、お答えを申し上げたいというふうに思います。

町では現在、空家バンク制度の拡充や、町の地域資源である美しい自然環境、新松田駅、松田駅、大井松田インターチェンジ、国道246など、交通の利便性を生かしたさまざまな魅力をあわせて、新しい施策を積極的に進めております。その一つに、住宅取得促進奨励事業を拡充した二世帯同居、また近くに住む近居をされる方々の住宅支援事業にも力を入れ、若い世代が安心して子供を産み育てる環境や、高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境をつくるために、ふるさとである松田町に長期に住んでいただく取り組みを積極的に行っております。

議員御提案の、遊休地を生かした子育て専用住宅の整備でございますが、松田町に長く住んでいただくことや、町全体の将来に向けた住環境、遊休町有地の活用方法、町営住宅の移転交渉に伴う新設の町営住宅整備手法や、その跡地利用などを踏まえて、公営住宅等の整備を検討しております。その一つが、現在県に購入することを申し出ております旧松田土木事務所等の跡地内がございます旧松田警察署官舎をリニューアルして、子育て世代が優先的に住める町営住宅とすることを検討しているものでございます。去る20日には、県担当が来庁し、担当者間で打ち合わせを持ちました。同日、県が委託した土地建物鑑定士が調査に入ったということで、その結果を受け、10月下旬には譲渡価格の提示を行いたいということでございます。この件につきましては、ただいま申し上げました交渉段階でございますので、これ以上詳細については差し控えたいということでもありますけども、その報告につきましてははしかるべきときに御報告させていただきたいというふうに思っております。

そのほかの町内の遊休地の利活用でございますが、まず民間の土地の利用につきましては、仮称でございますが「住宅等供給土地活用基本計画」の策定に

取り組み、あわせて町有の遊休地につきましては、将来に向けての町の財政状況や公共施設等の老朽化対策の問題など、公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことを進め、利活用していかなければならないと強く感じております。その中で、子育て世代向けの住宅に対する新たなニーズに応えると同時に、既存施策や事業の費用対効果の分析も行い、必要性を見直していくことも必要でございますので、町民の皆様方の御意見、御提案を聞きながら、子育て世代向けの住宅の整備を計画的に進めてまいります。また、今後進んでいく高齢化のピークを視野に入れた高齢者等の住宅施策や公共施設整備などもあわせて、国が計画策定を要請しております「公共施設等総合管理計画」に位置づけて、積極的に官民連携した公共施設整備手法の可能性も調査した上で、計画的に住宅整備を進めてまいり所存でございます。

続きまして、2点目、3点目の御提案につきましては、教育長よりお答えをさせていただきます。よろしく申し上げます。

教 育 長 次に2点目の、児童数の減少が著しい寄小学校、寄中学校を松田へ統合するという提案でございます。議員皆様も御承知のとおり、平成24年度に寄地区の学校のあり方検討会で答申をいただき、寄の学校の存続の提言がなされました。その提言の中では、3年間を待っていま一度検討会を立ち上げて、学校のあり方を検討、議論すべきとのことでした。また一方で、小規模校のよさを内外に広く周知し、小規模校として魅力ある学校生活をする取り組みの提言もいたしました。1つには、小規模校特認校制度の導入で、より多くの子供が寄地区の学校で学ぶことができるようにすることが必要であるということでした。つまり、住所はそのままに、松田から寄に登校するというものです。教育委員会として、この小規模特認校制度についての取り組みは行ってはおりません。しかしながら、子供の学校生活に変化が及んだ場合など、学校と連携しながら教育的配慮により、必要に応じて学区を外すことで柔軟に対応してまいりました。

そのほか、提言書では、各学校での取り組みの強化策についても示され、子供たちの教育環境を整えることが必要であると提言されています。地域や学校との連携、外部講師を招いての体験学習、アメリカの学校とテレビ電話による

国際交流など、学校における教育の取り組みを実施してまいりました。しかしながら、子供たちを取り巻く教育環境はここ数年で変化を見せており、提言にあります3年を待っていま一度検討会を立ち上げるという年を1年前倒しし、ことし将来的な松田の教育をどのように考えていけばよいかなどを話し合う座談会形式の組織を立ち上げました。先日、その第1回目の会合を持ち、立ち上げの趣旨説明と同時に、今後の松田町の学校のあり方全般について議論したところでございます。1回目の会合でしたので、趣旨説明で終始してしまいまして、余り議論する時間はとれませんでした。それでも出席された皆様からは、寄地区の学校の話や子供の環境の話など意見交換が行われました。現在その取りまとめと、今後の話し合いのテーマについて調整をしているところでございます。

いずれにいたしましても、合併ありきの会議ではなく、この座談会を中心に町全体の学校のあり方を議論し、答申はいただくことは考えておりませんので、出された意見を教育委員会で集約し、また方向性についても検討した後、最終的には町長が学校のあり方の方向性を定めることとなると思っておりますので、もう少しのお時間を頂戴し、御理解を賜りたいと存じております。

次に3点目の、松田小学校における減築工法による大規模改修事業でございます。松田小学校に対する取り組みでは、まず建てかえについて、平成31年度に建設に着手する方向性が示され、そのために基金が設立されました。27年度末では、積み立て元金2億円となる見込みでございます。

議員御提案の松田小学校の減築工法ですが、国が学校施設の老朽化対策として「学校施設の長寿命化改修の手引」を平成26年1月に出しております。それによると、将来的な少子化もあいまって、新たに学校を建設するより低コストで現代的な改築が見込めるということで、国が一つの手法として推奨しているものでございます。計画が出された当初では、建物の耐力度調査を実施し、その結果が一定数値以下の場合に補助対象となることと限定されておりました。使い勝手という点では、どの自治体も手を挙げられない状態でした。そのような中で、平成27年度にこの条件が緩和され、築40年以上の施設であれば対象になるとの改正が行われ、長寿命化改修として補助金が受けられることとなりました。

た。そのほか、公立学校施設整備事業における国庫補助事業については、大規模改造事業補助や防災機能強化補助があります。そして今回の長寿命化改修補助と、それぞれ3分の1の補助になりますが、これらの補助事業を組み合わせることも可能となりました。

したがって、2点目の質問でお答えしましたとおり、今後の学校のあり方を検討し、そしてその方向性を示した後に対応してまいりたいと考えておりました。議員からの御提案である減築工法も視野に入れながら総合的に判断してまいりますので、御理解をいただきたいと存じます。以上です。

5 番 小 澤 答弁、非常に前向きな答弁ということで、ぜひそういう方向で検討していただきたいなど、こういうふうに思っていますけれども。人口減少の問題につきましてね、やはりこれは人口問題研究所、あるいはその後の日本創成会議等々です。松田町の人口がとにかく1万人は割りますよ、2040年には7,000人になってしまいますよ、これは根拠のある数字で出していることであって、やはり前回もこのような質問をしたところ、政策推進課長のほうから、いや、そこまではいかないよという話もありましたけど、ただやはりこれは公式な機関が2040年、要するにその30年後にはこうなりますよという警告を発しているわけですから、やはり人口減少が進んでいくこと自体は間違いのない事実なんです。しかもそれが若年女性が大幅に減っていく。60%も、20歳から39歳の女性が減ってしまいますよということで、この若年女性が減るということは、当然子供も減ってくるということ、やはり一番怖いのは、そういった現役世代が減少して子供が減って、年寄りだけがふえていくという、そういう典型的な少子高齢化の社会が現実にも今、進行しているわけですね。これをいろいろ、町のほうとしてもいろんな施策を打ちながら何とか食い止めようと、こういう努力をされているのはよくわかるんですけどもね、しかし、今、人口の食い止めようということは、各自治体の中でそういった人口をふやそうという獲得競争、中でも現役世代を何とか自分の町に、市に確保していこうと、こういうような競争が起きている。現実には、開成町は南部開発ということで、大規模な宅地分譲をやっているし、大井町も湘光園の跡、今もやっていますね。あそこも九十何世帯だったかな、やっているし、それでそれが終わったら役場の北側の空

き地のところも宅地分譲していこうというようなことで、人口増加策をそれぞれが打っているわけです。ですから、こういう近隣の町が一生懸命やっているのに、松田は根本的な対策をやはり立てていかなければ、若い世代が振り向いてくれない、よその町へみんな流れてしまうと、そういう私は危機意識を持って、もっと強く持っていただきたいと思っています。

今、出生率ですけれども、これ去年の、これは東北大学が修正発表されたんですけれども、平成26年全国で1.42という形で、一番多いのは沖縄の1.88ということですが、神奈川県が平均が1.34というような数字出ていますけれども、松田町は、松田町のこの特殊出生率というものは把握をされているんですか。

政策推進課長 一昨年で1.13と記憶しております。1.13です。

5 番 小 澤 1.13。東京都が一番低いといって1.20ですよ。これ大変困った数字ですよ。やっぱりここから直していかなきゃいけないという。今、私ちょっとその話聞いてびっくりしました。それで、そういった子育て世代をこの町に取り込んでいこうという、そういう何ていうんですか、子育て世代に優しいまちづくりを進めていくのにはね、やはり子育て世代に適した住宅の提供、住宅環境の整備、それから教育環境の整備を進めていく。あるいは医療施設の充実だとか、日常買い物の利便性、あるいは子供に対する福祉サービスの充実と、こういうようなことが相まって、松田の魅力が上がっていくんだらうと、私はこう考えてます。

こういう中で、今回はですね、この住宅の問題と教育環境の整備ということについて、絞り込んで一般質問をさせていただいていますけれども、まずその住宅の問題。今、町のほうでは新築すれば20万の補助出しますよとか、いろいろやっていますけれども、インパクトがどうしても弱い。私は外部からそういった子育て世代を松田に呼び込むには、もっとインパクトのあるものが必要じゃないのかなと、こういうように考えています。

そういう意味からですね、今、先ほど町長のほうから話がありましたように、県有地を松田で引き取ってくれないかと。松田土木しかり、それから企業庁の跡地がしかり、警察官舎の跡があったり、今、家畜保健事務所も町営住宅にし

ようとやってますけれども、それ以外にも寄1丁目の民有地も松田町に寄附をしたいと、こういうようなことで、土地のない松田町にとって、住宅地の少ない松田町にとって、千載一遇のチャンスが来ているのかなと、こういうような感じを受けておりますのでね。やはりこの遊休地をですね、もう子育て世代専用住宅にする、あるいは優先住宅にするというような形でやっていくことが、松田町がこれだけ今、若い世代、子育て世代に力を入れてるんだよということ、県内外に知らせるいいチャンスだろうと、こういうように考えてます。例えて言うならば、新築の2LDK、駐車場1台つき、4万8,000円、どうですか。今現在、これだけのものをですね、借りようと思うと、大体7万5,000円で駐車場別ということで、駐車場を借りて水道光熱費払うと、月に10万は超えるような出費になる。この辺でこういった、今、例えばということで4万8,000円と出しましたけれども、これぐらいのことを打ち出していないと、なかなか松田町に振り向いてくれないのじゃないのかなと。この松田というのは非常に自然に恵まれたところで、しかも交通の便利のいいところですから、地理的条件としては全くほかの町に比べてすぐれているところなので、そういうところがこういった子育て世代の具体策を打ち出していく。これ大事なことはないのかなと、こういうように考えていますけれども。先ほど町長の答弁の中で、ちょっとこれ確認ですけれども、警察官舎の跡を子育て専用住宅にしたいというような発言があったかと聞いておりますけれども、この辺をもう一度、町長、御答弁をお願いします。

町長 先ほど申し上げさせていただいたものを、確認という意味で再度お話ししますが、子育て専用ということではなく、子育てをまず優先というようなことで考えています。警察官舎に関しては、4階建てで、全部で16戸あります。それで2DKプラスSみたいな感じなんです。非常に、中身を見させていただき、非常に、築30年ぐらいということで聞いておりますので、まだまだリフォームすると活用できるものであるし、耐震工事のほうも終わってるということですので、あそこは構想の段階ではありますけどもね、本当に若い方が住みやすい環境の中で、エコ的な、屋上には太陽光パネルを敷き詰めるなり何なりということで、本当に、若い方が本当に住みたいと思ってもらえるような施設

にしまいにしたいというようには考えてはおりますが、そのときどきの状況にもよります。ですので、今はまだ構想という段階だということで御理解いただきたいと思います。以上です。

5 番 小 澤 町長、松田土木については何か言われませんでしたか。

議 長 5番議員に申し上げます。松田土木のほうには子育て専用は言っておりません。

5 番 小 澤 はい、はい、わかりました。今その警察の官舎をそういうようなものに、優先住宅にしたいと、こういうようなお話ですけれども、ぜひ具体的に進めていただきたい。そういう中でですね、やはり多分格安な値段が出ようかと思えますけれども、やはり今、自治会加入者が減ってるとか、消防団員が減っていると、こういうような問題ありますので、そういうところに入る方はこういった自治会に必ず加入すること、あるいは消防団には必ず加入できる人、こういうような条件、あるいは町行事に参加することと、こういうような条件をつけた中でですね、やはり進めていっていただきたいと思っております。

実は私が子育て専用住宅というようなことを言っていますのはね、長野県の下條村を見に行ったときに、3階建ての12世帯から16世帯入れるようなものを、ここもう11年間、毎年1棟ずつ建っている。この下條村というのは人口が8月1日現在で4,000人弱ですけれども、これ以上減っては村の機能が成り立たないということで、高齢化が進行している中で何としても若者世代をこの村に持ってこようということでそういうことを始めたわけですけれどもね。私は町長に1つ提案をしますけれども、やはりこういった子育て世代に対して、具体的に活動されている自治体があるんですね。こういうものをですね、議会は議会で見るよ、行政は行政で見るよじゃなくて、そういうところがあれば一緒になって見に行き、そして話を聞く。こういう姿勢が必要じゃないかと思うんですね。私も視察に行ったときには、向こうの役場担当者からの話だけでなく、できるだけその町長なり村長なりから直接話を聞くような形を心がけていますけれどもね。やはり行政のトップの話を聞いてこない、なかなか職員の話だけではその町のトップの意気込みというものは感じられませんのでね、こういった子育て世代を、住宅を進めていく上について、そういったような視

察だとか研修だとか、こういうものをぜひ考えていただきたいと思いますけれども。その辺はいかがでしょうか。

町長 御提案ありがとうございます。おっしゃるように、やはりその下條村の話でいくと、やっぱりトップの方々の感性というか、そういった思いとかというものを直接やっぱり聞くということは非常にいいことだと思います。並びに我々町としては執行側と議会の方々と一緒にまた話を聞かせていただくという機会を設けるということ、非常に私もいいと思います。これまで、私もまだ就任してもうそろそろ2年たちますけども。それまでも一緒にそういった視察をしたことがなく、こういうキャッチボールをすることが多かったです。今後、これから目先にまた新しく改選があられると思いますけども、その改選された後にはそのときの議会の方々と協力して、先進的な視察等々を組み入れるようにしていきたいというふうにも考えております。それはもう予算をまたつけなきゃいけないところですので、また皆さん方にもですね、御理解いただきたいというふうに考えております。ありがとうございます。

5 番 小 澤 松田町という非常に小さな町で、やはり人口減少に悩んでいるわけですからね。やはりこれは職員も町長も議会も一緒になって、この問題どうしたらいいか考えていく必要があるのかなと、こういうように感じておりますので。新しい議員がそろいましたら、ぜひまたそういう方向で進めていただきたいと、こう思います。

それから次の教育環境の整備ということで、寄小学校・中学校の松田への統合。私はあえてこの問題を取り上げさせていただきました。寄地区の人たちからすれば、今まで生まれ育った学校が廃校になるということに対しては、ものすごい寂しい思いもするであろうし、とんでもないというような意見もあろうかと思いますが。しかしあえてですね、子供たちの将来のために、私はこの問題を取り上げさせていただきました。

寄地区のですね、小学生の数がですね、2010年66人だったものが、2015年には36人、1学年平均6人、少ないところでは3人ですね。寄地区のお母さん方と話をしている中でね、小学校6年になったときに、このまま寄中学へ行かしていいのか。あるいはもっと生徒が大勢いるよその町へ住所を移して、そっち

へ行こうか。一番悩むのがこの小学校6年生のときだそうです。やはり勉強の問題もありますね。それから部活の問題。あるいは友達ができない。こういう3つの要素があって、親が本当に悩んでいます。現実には小学校のときによそへ転居された方もあると聞いてますけれどもね。やはり今こういう現実の中で、平均6人の子供が、男女がいるわけですから男3人、女3人。男3人で何かやろうと思ったってできないんですよ。サッカーやりたいという子供もいるんですね。野球がやりたい。テニスやりたい。だけど現実にできない。こういうような子供たちの問題を、もう行政としては手を打っていかねばいけないんじゃないのか、そのことを私は強く感じています。将来がある子供が大きく成長していくためにもね、やはり教育環境の改善、整備ということはどうしてもこれ、避けて通れない話でありまして。今教育長のほうから答弁ありました。ことしですね、座談会形式で意見を聞いて、何とか一つの方向を出そうよと、こういうようなことでありますのでね。これはできれば早急に、もうそれこそそういった事務手続のことわかりませんが、来年度から、じゃあ寄の子供たちは松田小学校へ入れちまおうというぐらいの意気込みがあっても私はいいのかなと思っています。確かに寄に住んでいる大人の方たちにとってみれば、俺たちが育って学んできた校舎がなくなる。非常に寂しいこととは思いますが、やはり将来の子供たちのためにどうすべきか、そういう観点でね、ひとつ考えていただきたいと思っております。このことに関しましては、教育長のほうから答弁ありましたので、ぜひそういう方向で進めていただきたいと思っています。

それから松田小学校の校舎の改修。今、平成31年に校舎を建てかえるというような話でありますけれども、やはり校舎を建てかえるとなると、やっぱり20億からのお金がかかってきますね。多分、今の運動場のほうに建てて、あるところを壊していくというような形であろうと思っておりますけれども。現実にはこの限られた町の財政の中でそんなことができるのか。31年に20億近いお金なんてどうしたってできるわけがない。今現在、教育施設の積立金が今26年度で1億ですね。今の話では27年度末には2億にしたいと。でも桁が違いますよ。そういう中でね、やはり生徒数が今、松田小学校、400人を割り込みました。392人。

5年間で100人以上の子供が減ってしまった。この傾向はまだまだ続いていくわけですから、今ある建物自体が多分収容…収容人数というとおかしいですけども、1,000人規模の松田小学校だと思います。現実には4階部分は雨漏りがあったりして使っていないのが現状なんでね。私はその4階部分を全部取り払って、取り払うことによって耐震の問題、それから雨漏りの問題は一気に解決ができるはずなんです。あと、内装はどうしてももうこれ手を入れないと、床にしる壁にしる、あるいは電気、水道設備にしる、手を入れていかないといけないのかな。そういう意味で新築よりも、平成31年よりももっと前にですね、大規模改修工事をやってもいいのかな。よそでやった例を聞きますと3億ぐらいで上がりますよ、あるいは附帯工事を入れても4億あればできますよ。こういうような声も聞いていますのでね。3億、4億でしたら、この町でもちょっと無理すれば何とかなる。そういう意味でね、新築工事じゃなくて大規模改修工事で、私は早い段階で進めて行ってほしいなど、こういうように考えています。このことについて教育長のほうから、この減築工法も視野に入れてやっていくというようなお話がありましたけれども、この小学校の建てかえ問題について、もう少し何か具体的な動きというものが現在あるんでしょうか。その辺をちょっと御説明いただきたい。

教 育 課 長 お答えいたします。この松田小学校の改築に関しての具体的な動きということですけども、まずですね、今、小澤議員から御指摘いただいた、最初にお話があった人口減少問題ということで、確かに子供の数が今、松田小学校393人という数で、年々減少してございます。ただ、町として定住対策を含め、先ほど町長から答弁ありましたように、子育て世代をふやしていく、増加させていくというその施策の部分とあわせると、今の松田小学校の要は規模ということが適正かどうかというのが、そういった施策とあわせながら考えていかなければいけないというふうに思っています。確かに減築工法という一つの手法がございますけれども、単純に例えば4階の教室が必要ないので4階の部分をじゃあ減築してそこに屋根つけましょうというやり方は、確かに長寿命化、今回の指針の中にも出ております。ただ、それが果たして40年を超えた校舎に適してるのかどうかというところは、教育委員会としてもまだ耐力度調査とい

うような校舎の調査をしておりませんので何とも言えませんが。基礎、土台の部分が果たしてそれに耐えられるのかどうか。国が言う長寿命化指針によれば、少なくとも最低20年は長寿命化させなきゃいけない。そういったところも考えますと、一つの手法として減築工法というのは、今後の子供の数によってもそういうことは適正規模としては、やり方としてはよろしいのかなという考え方はありますけれども、やはり子供たちの、定住対策による子供の数の増加だとか、そういった将来的なことも考えながら、校舎の、松田小学校の改築については考えていかなきゃいけないのかなというふうに思っておりますし、それもあわせて先ほど教育長から答弁ありましたように、座談会形式で今、保護者を含めたメンバーでの座談会を開催しておりますので、そこで方向性を見出していきたいというふうに考えてございます。

5 番 小 澤 今、座談会方式、これ松田小学校の問題についても入ってるわけですか。

教 育 課 長 この座談会については、統合とか合併ということありきではなくて、松田町全体の学校のあり方をどのようにしていけばいいかと。その前段にあるのがやはり少子化という問題も確かにありますし。そういった意味で寄の小・中学校のみならず、松田の小・中学校、ましてや幼稚園も含めた中で、そういった方々のPTAの方々も参加していただいている座談会で組織しておりますので、そういった中で議論していきたいというふうに考えてございます。

5 番 小 澤 とにかく子供の減少はね、あるいは町の人口の減少はとまらない。減少、下がっていく割合が少しは緩くなるのかなという程度のことで、ふえるめどもないし、このままの数を維持できるめども立っていない。当然小学校も今よりも減っていくことはまず間違いない中で、私はたしか松田小学校、耐震工事でもすね、もう何年にもわたって億のお金をつぎ込んで耐震工事はやってるわけですね。何とか耐震についてはめどが立ったと、こういうような話も聞いていますのでね。そこまで金をかけたものですから、そういった意味で10年、20年、十分対応できるのかなというように考えています。

いずれにしてもですね、次代を担うそういった子供たちが、私は松田の小学校・中学校から大勢巣立っていただきたい。そのためには今進行している少子高齢化を何とか食い止めながら、そして外部から子育て世代を誘致をしていく。

あるいは獲得をしていく。そういうことをですね、具体的に方策として進めていくのが、今、町に課せられた課題ではないのかなと、こういうように感じています。そして子育て世代の人たちが松田に魅力を感じていただけるような、そういうような環境整備というものが今は非常に重要になっているんでね、やはり町の施策としてはこういう方向に向かって私は突き進んでいっていただきたい。こういうことをお願いして終わりにしたいと思いますけども、最後に町長、何かありましたら。

議 長 町長でいいですか。まちづくり課長じゃなくて町長へ。まちづくりの云々言ってますからね。

5 番 小 澤 いやいや、いいです、町長の意気込みだけ伺えば。職員の皆さん、それに沿ってやっていただけると思います。お願いします。

町 長 あらゆる御提案をいただきました。本当にありがとうございます。向かってる方向は全く一緒でございます、それに対してどういうふうな格好でやっていくかというところを考えなきゃいけないということだと思えます。それでやはり魅力を感じるためには、やっぱりこの松田町が将来的にどういうふうな格好になっていくかということを、しっかりと計画を立てる必要があると思います。それで、本当に恐縮なんですけどもね、少しずつわかってきたところは、やはり計画なくして補助金だとか国の予算というのはほとんどつかない。要は行き当たりばったりみたいなことが多くて、そういった観点で先ほどお話しさせていただきました定住化対策にしても、町がどういう町に将来的になるんだということをしっかりとやっぱり計画を立てて、それに伴ってやっていきたい。これは小学校、幼・小・中の義務教育の期間の中で、松田町として大切な子供を預かっている以上、これも当然ながら行き当たりばったりでやるのではなくて、今の座談会形式っていうことでもありますが、本当に町民の方がどういうふうに思っていることを、ハード面とソフト面としっかりと分けてですね、いつごろまでにはどうするというのを検討してまいりたいと。その中で減築工法のやり方でいくと、国のほうから3分の1という補助金が築40年以上のものに対しては当たるというふうな話も聞いておりますけども。ただ、本当に築40年の建物が、先ほどありましたように減築工法で耐えられるのかとい

ったこともあります。その中でやっぱり財政的なものもよく見ながら、勘案しながらですね、最終的な結論を出して、町民の皆様方の本当にサービスというか、今後松田町に住んでいきたいということを言っていただける方々をふやしていきたいというふうに考えてます。

1点だけ御報告というか、非常にいい方向に来てるのが、今、住宅の奨励金を出しておるところで、条件とかどこで検討したかとか、いろんなアンケートをいただいております。この間、裾野のほうから移ってきた方がいらっしたんですけども。やはり学童保育の充実だとか小児医療の充実というものをアンケート書かれていました。その中で地域でどこの町と検討したかといったところでいくと、松田と開成と大井町で検討してましたというようなことで、その中で松田をお選びいただいたという方々もいらっしました。ですから本当にこれまで歴代の先輩町長たちがやられてきた施策の分を、私としては花を開かせながら、また拡充しながら、補填しながら、これからまちづくりについて、教育のほうも含めてやっていきたいというふうに思っておりますので、そういった回答で終わらせていただきたいと思います。以上です。

議 長 はい、よろしいですか。

5 番 小 澤 はい、ありがとうございました。終わります。

議 長 以上で受付番号第1号、小澤啓司君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。10時35分より再開いたします。 (10時21分)